



撮影地
東伊豆・
八幡野沿岸

エサ不足 南から北上

英名でバタフライフィッシュと呼ばれる美しいチョウチョウオの仲間は、日本の海に約50種報告され、伊豆沿岸では20種以上の幼魚が観察されている。秋に珍しくムレハタタテダイの群泳に出会ったりすると、「ここはサンゴ礁の海だったっけ」と我が目を疑うことがある。

伊豆の海から

彼らは、白黒の太い縞模様が入った三角形の体に長く伸びた背ビレを「のぼり旗」のように翻らせ、勢いよく泳ぐ。体の明色と暗色の縞は信号となり、つがい

形成の役割を果たしている。

南方系の彼らが北上する理由の一つに、エサ不足の

解消がある。長い年月をかけて水温や食べ慣れないエサなどの厳しい条件を克服し、適応しようとするのだという。

しかし、冬の海に冷たい季節風が吹くと、水温はぐんぐん下がる。そんなときの彼らは仲間の姿にひきつけられるように集まり、みんなで限界温度と戦っているようだ。だが、弱い個体から命を落としていく。こんな自然淘汰が、「海のおきて」なのかもしれない。

(水中写真家・伊藤勝敏)